

インターバンクの声（2015年7月3日）

失業率が5.3%と前月から改善し、非農業部門就業者数が22万3千人増と市場予想を僅かに下回った米雇用統計結果に、発表直後の市場の反応は“ほぼ予想通りの結果”と“やや期待外れの弱い結果”との評価に分かれた。“期待外れの弱い結果”との判断は、恐らく先月の非農業部門就業者数が下方修正されたことや平均賃金が伸びなかったことなどが気になったのではないかと思われるが、それでもドルの対円やユーロでの変化は70ポイント程度に留まった。ニューヨーク勢にしてみれば、独立記念日による週末3連休が待ち構えている日程とあって、雇用統計の結果さえ確認すれば今週の取引は終わったも同じようなものだった。それでも金利の変化が直接影響するデスクの担当者に見れば直ぐ帰宅という訳にも行かず、9月の利上げ観測が再び後退した中で、最後までポジション整理に追われた。その真っ只中の短期金利先物市場では、連邦準備理事会（FRB）が利上げを来年まで遅らせるとの見通しに変わった。CME フェッドウォッチは、2016年1月の利上げ開始が有力と見ているようだ。普段であれば来週からの相場は、このFRBの利上げ開始時期の見方が大きな相場材料となるはずだったが、今回はギリシャの国民投票の結果を確かめるのがまず先だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。